

第9回 ジェンダー平等ミーティング

2025年12月11日(木)

「知事との意見交換会」



テーマ

知事との意見交換会



今年度のジェンダー平等ミーティングの取組の成果発表として、知事の前でプレゼンテーションを行いました。その後、知事と意見交換をしました。学生の個々の思いや考えを直接知事にお伝し、また知事からご返答を頂くことができ、たいへん貴重な時間となりました。



ジェンダー平等ミーティング1班

第3回 <学校とジェンダー>

- 高校生と大学生が学校の校則について意見交流会を実施
- 高校生も積極的に意見を述べ、ジェンダーについて不平等や疑問を感じているようだった。
(学生の身边に不平等が存在している)

第5回 <包括的性教育・性の多様性について>

- LGBTQ+という言葉 자체は広まっているが、意味・内容はあまり認知されていない。
- **当事者意識の欠如**

上記の二つを踏まえても、まだまだ理解が追い付いていないのでは？

若者を対象とした取り組みの提案

- ・高校、大学で学生向けに性別の先入観がある職業についての講演会、授業、説明会を実施（全員対象）
→実際に現場で働いてる方から話を聞く。
メリット、デメリットなど...
- ・座談会の開催
→自分の言葉、本音（就職前後のギャップを無くす）
→入社五年程度の方からリアルな声を聞く、疑問・不安を質問する

若者を対象とした取り組みの提案

学生の間で出た意見

- ・意識を変えるのは難しい = 制度を変える方が効果的?
→制度は国や県が変える。そのためには、皆が声を上げることが必要!
しかし、意識をえてもらえるような働きかけも重要。
- ・当事者意識をどう高めていくか
→連携が必須なのでは? → キーワード 「繋がり」
若者同士の繋がり → 大学生と高校生や中学生
様々な繋がり → 大学生と市民団体、大学生と当事者、大学生と政治家

参加者の関心ごと意見、感想

- ・今の高校生の生の声を聞き、自分が高校の時との変化などを感じることができた。今のリアルを知ることができて自分の経験としても有意義な活動になりました。「学校とジェンダー」
- ・スカートやズボン、メイクなど誰がしたり身についていても、何もおかしいと思わない。好きなものを着れるような世界へ、尊重されるような状況が増えていってほしい。「おしゃれ(メイクや服装)」
- ・災害時のジェンダー問題についてのワークショップを通して、災害対応におけるジェンダー配慮がまだ不十分であることを実感した。プライバシー確保や環境作りなどまだ課題は多い。災害は誰しもが経験する危険性があるが、その影響は人によって異なるため、様々な立場の声を防災計画に反映することが大切だと感じた。「ジェンダーと防災」
- ・ジェンダー平等に関する問題は、誰かの問題ではなく全員の問題だと思う。若者が関心を持っているこの状況をさらに大きく広めていけると嬉しい。「全体の活動を通して」
- ・これから社会に出る私たちにとってとても大切なことだと感じた。「働くとジェンダー」

ジェンダー平等ミーティング2班

若者を対象とした取り組みの提案

教育 × ジェンダー

小学校教育からジェンダーについての学びをはじめる

楽しい学びの中にジェンダーに関する学習を取り入れるのはどうか？

教育の大切さ

学校教育⇒小学生を中心とした小さい頃の人格・思想の形成に大きな影響を与える

実際に・・・

ジェンダーについて、学校の授業で初めて知るという経験をした生徒もいる。
講義で学ぶまで全く知らなかつたという実体験も。

「うみのこ」でジェンダー学習をするメリット

- ・記憶に残る

⇒実際に大学生である私たちが、「うみのこ」での学習を今でも覚えているので、このようなイベントでジェンダーについて学ぶことで、記憶に残すことができる。



- ・世代を超えた共有

⇒全県民が経験する「うみのこ」。

ジェンダーに関する話で世代間交流の促進につながる。

- ・他校の生徒との交流もある

⇒いつもと違う環境で、楽しく学ぶことができる。

うみのこでのジェンダー学習の具体例

ジェンダーかるた: ジェンダーの関する固定観念や課題、多様性について、かるたを通じて楽しく学べるようを作られたもの。

うみのこ研修会: 過去に、フローティングスクール主催の教職員研修会で琵琶湖の概要について、講義が行われていた。その開催に合わせて、ジェンダーについての講義も同時に行う。

講師による講義: 講師を招いて講義をしてもらう。
⇒ 県内の講師リストの作成を期待

参加者の関心ごと意見、感想

- ・人権教育等でセクシュアルマイノリティについて取り上げるなど、学校教育が性別に関する知識や気づきを得られる機会になってほしい。「教育×ジェンダー」
- ・幼いころからジェンダー学習をすることで、偏見もなくなると思うので、これから積極的に取り組むべきだと思う。「子供のジェンダー学習」

災害大国である日本において防災への取組は重要なこと。避難所での性被害も多数報告されるなど課題は多いので様々な人の意見をもとに考えていきたい。「防災×ジェンダー」

- ・私たちの記憶に濃く残るイベントごとでジェンダーについて学ぶことができたら成長してもジェンダーのことが深く頭に残るのではないかと思う。
- ・ジェンダー平等ミーティングを通して、こうした参加型の学びがもっと広がれば一人ひとりがジェンダー問題を自分ごととして考えるきっかけにつながると感じた。